

最終報告書の構成イメージ（案）

報告書策定に当たって

<社会的背景>

- 団塊世代が高齢期を迎える平成 27 年には、4 人に 1 人が高齢者となる
- 認知症や要介護者など、見守りが必要な高齢者が急増する
- 高齢者の 7 割は、介護が必要になっても自宅での生活を希望している
- 核家族化の進展により、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えている
- 若年人口が減少しており、見守りが必要な高齢者を若年者だけでは支えきれない
- 都市化の進展により、地域社会の支え合い機能が弱体化している

<施策の方向性>

- 高齢者の 8 割は、要介護（要支援）認定を受けない元気な高齢者
- 今後、団塊世代が高齢期を迎えるため、ますます元気高齢者が増えていく
- 介護や見守りが必要な高齢者は、社会全体で支えていく必要があり、元気高齢者もその担い手と位置づける

<事業の目的>

- 元気高齢者が、社会参加するための活動の場所や機会を確保できるようにする
- 元気高齢者が、地域の福祉を支える存在になるよう、支援する

協議会の議論
をまとめる

- 地域デビュー ○ マッチング
- 気運づくり ○ コーディネート機能
- 人材の養成 ○ 関係団体間の連携
- 地域での取組事例 など

中間のまとめ
を発展させる

具体的な事業展開

<都の役割>

○ 気運づくり・情報発信

（取組概要）

- ・「支えられる存在」から「社会を活性化する存在」へと「高齢者像」を一新し、広く都民に発信していく
- ・元気な高齢者が介護、子育てなどの担い手として活躍できるように、地域の活動等を紹介する

（具体的施策）

- ・イベントの開催、広報の実施
- ・シニア情報サイト（仮称）の開設

○ 区市町村の取組を支援

（取組概要）

- ・高齢者の社会活動や地域活動への参加を支援・推進する区市町村を支援する

（具体的施策）

- ・包括補助事業を積極的に活用し、区市町村の取組に対し、財政支援する
- ・先駆的な取組が都全域で広がるよう、サイトを活用し、地域の取組事例を紹介する